

## 情報学部 情報学科 (情報デザイン学科を兼務)

氏名		職位	最終学歴	学位	所属学会	専門分野	研究テーマ	研究業績
小栗 勝也	OGURI Katsuya	教授	慶應義塾大学大学院 法学研究科 政治学専攻 修士課程修了、 慶應義塾大学大学院 法学研究科 政治学専攻 博士課程単位取得退学	法学修士 (慶應義塾大学)	日本政治学会／日本選挙 学会／日本法政学会／慶 應法学会	近現代日本政治思想史／ 現代マスコミ論	明治末期から昭和初期ま での日本政治思想史／現 代日本のマスコミ論	・袋井地域初の小学校＝用行義塾に関する研究 ・明治以降の日本政治史・思想史・世相史に関する研究 ・日本の選挙分析、地方議会史の編纂
谷口 ジョイ	TANIGUCHI Joy	教授	東京大学大学院 総合文化研究科 言語情報科学専攻 博士課程単位取得満期退学	博士 (学術) (東京大学)	国際応用言語学会 (AILA)／社会言語科 学会／日本語学会／静岡 県民俗学会	社会言語学／応用言語学 ／バイリンガリズム	危機言語の記録・保存／ 方言の変異・変化／第二 言語習得／継承語教育	A qualitative approach to language of your bilingual children, KLA Journal Vol.5 p.14-24 (May 2019)
富田 寿人	TOMITA Hisato	教授	順天堂大学大学院 体育学研究科 修士課程修了、 順天堂大学 研究生 修了	体育学修士 (順天堂大学)	日本体育学会／日本体力 医学会／運動生理学会／ American College of Sports Medicine／日本 ウォーキング学会	運動生理学／体力学	幼児の運動習慣と体力の 関係／健康づくりにおけ る運動の効果／人のパ ワー出力について	・ノルディックエクササイズ&ノルディックウォーキング, N A P, 東京, (2012) ・アクティブ・チャイルド・プログラム, 日本体育協会, 東京, (2010) ・ジュニアスポーツのための医・科学ハンドブック, 日本体育協 会, 東京, (2007) ・体力とはなにか, N A P, 東京, (2007) ・スポーツリーダー兼スポーツ少年団認定員養成テキスト, 日本 体育協会, 東京, (2006) ・リーダーのためのテキストブック, 日本スポーツ少年団, 東京, (2004) ・ショートトラック指導者育成教本, 遊戯社, 東京, (2003)
大楯 弘順	OHSUGI Kojune	教授	東北大学大学院 理学研究科 博士課程修了	理学博士 (東北大学)	日本発生生物学会／日本 分子生物学会／日本生 化学会／日本動物学会／ Society for Developmental Biology USA／日本癌学会	発生生物学／遺伝子工学 ／細胞工学／人工生命	動物発生過程の遺伝子発 現制御機構の研究／生物 発生過程からのアルゴリ ズムの抽出と工学応用を めざしたモデリング／自 己修復する工学システム の構築	・動物発生時のパターン形成機構に関する研究 ・形態形成と細胞周期との関係に関する研究 ・自己組織化工学システムに関する研究 ・人間とロボットの関係に関する研究

## 情報学部 情報学科 (情報デザイン学科を兼務)

氏名		職位	最終学歴	学位	所属学会	専門分野	研究テーマ	研究業績
友次 克子	TOMOTSUGU Katsuko	教授	同志社大学大学院 文学研究科 博士前期課程修了、 同志社大学大学院 文学研究科 博士後期課程満期退学	文学修士 (同志社大学)	日本認知言語学会／日本 英語学会／表現学会	英語学／言語学	言語形式と意味の対応／ 日英語対照研究	・アスペクトの研究 ・コーパスに基づく使役構文の研究 ・知覚動詞、心理動詞の分析 受動文の研究、 ・受動文の習得
林 章浩	HAYASHI Akihiro	教授	筑波大学大学院 ビジネス科学研究科 企業科学専攻 博士課程修了、 南山大学大学院 理工学研究科 ソフトウェア工学専攻 博士課程修了	MBA (筑波大 学) 博士 (システム ズ・マネジメン ト) (筑波大学) 博士 (ソフトウェ ア工学) (南山大学)	電子情報通信学会／イン フォーマティックスサエ ティ学会	管理工学／社会工学／ソ フトウェア工学	ソフトウェア品質管理／ プロセス改善／意思決定 支援	・米国 Motorola, Inc社のJapan Productにおける開発、プロジェクト管理業務 ・NTT本社, NTT研究所, NTTコミュニケーションズ, NTTデータにおけるコンサルティング業務 ・IBMビジネスコンサルティングサービスにおける戦略コンサルティング ・CMM, CMMI, ISO/IEC 15504リードアセッサー, ISO9001審査員補を用いたプロセス改善コンサルティング ・統計士, データ解析士, JMPなど統計解析技術を用いた定量的品質管理コンサルティング ・各大学, 企業, 研修所におけるセミナー講師
本多 明生	HONDA Akio	教授	東北大学大学院 文学研究科 人間科学専攻 博士後期課程修了	博士 (文学) (東北大学)	日本心理学会／ Association for Psychological Science ほか	心理学 (特に実験心理 学、感性工学、災害心理 学、性格・社会心理学な どの分野)	多感覚情報処理 (視覚や 聴覚、体性感覚などの複 数の感覚情報がどのよう に統合されるのか、な ど) / 感性情報処理 (映 像コンテンツの臨場感や 迫真性はどうすれば高め ることができるのか、な ど) / 防災・防犯意識 (災害などの非常事態に 強い人にはどのような特 徴があるのか、など)	Honda, A., Tsunokake, S., Suzuki, Y., & Sakamoto, S. (2018). Effects of Listener's Whole-Body Rotation and Sound Duration on Horizontal Sound Localization Accuracy. Acoustical Science and Technology, Vol. 39 (4), 305-307. ほか

## 情報学部 情報学科 (情報デザイン学科を兼務)

氏名	職位	最終学歴	学位	所属学会	専門分野	研究テーマ	研究業績
兼子 一 KANeko Hajime	教授	大阪市立大学大学院 文学研究科 社会学専攻 後期博士課程単位取得満期退学	修士 (文学) (大阪市立大学)	日本社会学会／日本社会学理論学会／日本社会分析学会／日本芸術療法学会／アートミーツケア学会 ほか	社会学 (社会学理論) / 社会調査論 / エスノメソドロジー / 芸術社会学 / 宗教社会学 / エンパワメント科学	エスノメソドロジー (成員カテゴリー化実践の分析) / アーツセラピーを用いたエンパワメント活動の調査 / アートエンパワメント活動と限界芸術の理論 / エンパワメント型アーツセラピスト支援ツールの開発	<b>【調査研究】</b> ・「エンパワメント型アーツセラピーの動向」(前・後編)『さぼーと: 知的障害福祉研究』日本知的障害者福祉協会 編 (2023) ・「信者が『世代』を語る時」『宗教と社会』宗教と社会学会 (1999) <b>【理論研究】</b> ・「エンパワメント型アートセラピー研究の現在」(共著)『心の危機と臨床の知』甲南大学人間科学研究所 (2019) ・「実体的権力理論から唯名論的権力作用論へ」『社会分析』日本社会分析学会 (2000) <b>【その他】</b> ・『アクティブ・インタビュー』セリカ書房 (2004) [翻訳]
伊藤 明倫 ITO Akihito	准教授	名古屋市立大学大学院 芸術工学研究科 博士前期課程修了	修士 (芸術工学) (名古屋市立大学)	日本映像学会	メディアアート / メディアデザイン / 映像インスタレーション	メディアアート・メディアデザインと映像表現の制作と研究	作品発表: 国際展覧会CURRENTS 2016入選 (アメリカ)、国際展覧会FILE 2018入選 (ブラジル) 国際論文: I.Takahashi and A.Ito, Siggraph Asia 2015, Art Papers Article No. 5 /International Conference Proceedings 「ACM Transactions on Graphics」 著書: DATA CITIES: The XIth Annual Meeting of UNESCO Creative Cities Network/UNESCO p186-p191

## 情報学部 情報学科 (情報デザイン学科を兼務)

氏名		職位	最終学歴	学位	所属学会	専門分野	研究テーマ	研究業績
渡邊 言也	WATANABE Noriya	准教授	玉川大学大学院 工学研究科 脳情報専攻 博士課程後期単位取得退学	博士 (工学) (玉川大学) 修士(神経科学) (筑波大学)	日本神経科学学会/日本 心理学会/北米神経科学 学会 (SfN)	認知神経科学/生理心理 学	感情とストレスの神経基 盤の解明	<p>主要な論文</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Watanabe et al. (2023) "Multimodal deep neural decoding reveals highly resolved spatiotemporal profile of visual object representation in humans." <i>NeuroImage</i></li> <li>2. Watanabe &amp; Takeda.(2022) "Neurophysiological Dynamics for Psychological Resilience: A View from the Temporal Axis." <i>Neuroscience Research</i></li> <li>3. Watanabe et al. (2019) "Ventromedial Prefrontal Cortex Contributes to Performance Success by Controlling Reward-driven Arousal Representation in Amygdala." <i>NeuroImage</i></li> <li>4. Watanabe et al.(2019) "Reward-driven Arousal Impacts Preparation to Perform a Task via Amygdala-Caudate Mechanisms." <i>Cerebral Cortex</i></li> <li>5. Watanabe et al. (2013) "Reward Prediction Error Signal Enhanced by Striatum-Amygdala Interaction Explains the Acceleration of Probabilistic Reward Learning by Emotion." <i>The Journal of Neuroscience</i></li> </ol>
白田 泰如	USUDA Yasuyuki	准教授	京都大学大学院 人間・環境学研究所 博士後期課程指導認定退学	博士 (人間・環境 学) (京都大学)	社会言語学会/日本語 用論学会/日本認知科学 会/International Pragmatics Association	相互行為分析/語用論/ コーパス言語学	会話の構造の言語学的・ 社会的・認知科学的解 明, および社会活動にお ける会話の機能・実態の 解明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小磯 花絵, 天谷 晴香, 居關 友里子, 白田 泰如, 柏野 和佳子, 川端 良子, 田中 弥生, 伝 康晴, 西川 賢哉, 渡邊 友香 (2023) 「『日本語 日常会話コーパス』設計と構築」 国立国語研究所論集, 24, 153-168.</li> <li>・白田泰如 (2021) 「態度をほのめかす例示: 日本語引用表現「みたいな」の分析」 『国立国語研究所論集』 20, 149-169.</li> <li>・Usuda, Yasuyuki (2020) Japanese Quotation Marker "tte" in Conversation using Everyday Conversation Corpus. The Proceedings of Oriental COCOSDA 2020.</li> <li>・白田泰如 (2019) 「TRPGにおける「ここ」: 仮想的秩序と現実世界の秩序との整合をめぐる断章」 松井広志・東園子・井口貴紀・大石真澄・秦美香子編『多元化するゲーム文化と社会』, 139-159.</li> </ul>

## 情報学部 情報学科 (情報デザイン学科を兼務)

氏名		職位	最終学歴	学位	所属学会	専門分野	研究テーマ	研究業績
津田 裕之	TSUDA Hiroyuki	准教授	京都大学大学院 人間・環境学研究所 博士後期課程修了	博士 (人間・環境学) (京都大学)	日本心理学会、日本認知心理学会、日本基礎心理学会、日本環境心理学会	認知心理学／実験心理学 ／認知科学／環境心理学	人間の知覚・記憶・感性 ／空間や環境が人間の心理や行動に与える影響 ／美術の心理学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古見文一・小山内秀和・樋口洋子・津田裕之編、『はじめての心理学概論 公認心理師への第一歩』, ナカニシヤ出版, 2019年4月.</li> <li>・津田裕之 (2023). 計算美術史の可能性と課題. 西洋史学, 275号, 60-64.</li> <li>・Tsuda, H., &amp; Kawabata, H. (2023). materialmodifier: An R package of photo editing effects for material perception research. Behavior Research Methods.</li> <li>・Tsuda, H., Fujimichi, M., Yokoyama, M., &amp; Saiki, J. (2020). Material constancy in perception and working memory. Journal of Vision, 20(10):10, 1-16.</li> <li>・Tsuda, H., &amp; Saiki, J. (2018). Constancy of visual working memory of glossiness under real-world illuminations. Journal of Vision, 18(8):14, 1-16.</li> </ul>
大塚 敬太	OHTSUKA Keita	講師	東京藝術大学大学院 映像研究科メディア映像専攻 修士課程修了	修士 (映像) (東京藝術大学)		写真、映像	写真技術史、写真表現、 撮影技術、科学写真	<b>【受賞歴】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第41回キャノン写真新世紀 佳作 (写真新世紀事務局)</li> <li>・第42回キャノン写真新世紀 佳作 (写真新世紀事務局)</li> <li>・APA AWARD 2024 審査員 関次和子賞 (公益財団法人日本広告写真家協会)</li> <li>・APA AWARD 2025 入選 (公益財団法人日本広告写真家協会)</li> </ul>